



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然史博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2014. 10 No. 58

発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

札幌のナマコを知っていますか？

通称なまこ山は住宅街の中に緑の帯を作っています。場所は、三角山小学校の南側、本郷新記念札幌彫刻美術館(中央区宮の森4条12丁目)の橋向いです。9月に美術館主催の観察会「なまこ山を歩こう」の講師を務めました。これは美術展「Our place(アワー・プレイス)～歩く・感じる・考える、私たちの生きる場所～」(札幌国際芸術祭2014連携事業)の関連企画で、「見慣れた場所を初めて訪れるように歩き」、「自らの生きる場所の自然環境、文化、歴史などを深く見つめる」きっかけにしようというメッセージが込められています(図録より抜粋・引用)。

地質の専門家に聞いたところ、なまこ山はおそらく三角山と同じく650万年前～300万年前の海底火山の噴出物が積み重なって形成された西野層という地層だろうとのことでした。なまこ山の規模は、山というより小さな尾根といった感じです。その形が海の生き物であるナマコ(写真1)に似ていることから、なまこ山と呼ばれるようになったようです。今は周囲が住宅に囲まれ、ナマコの全容は見えませんが、視点を変えて上から見ると、ナマコが住宅地の中に横たわっているのがはっきりと見えます(写真2)。

しかし、観察会の参加者の中にナマコ山の全景を目線の高さで(上からでなく横から)見ていた人がいたのです。「昔は円山までずっとスキーで滑っていけるほど何もなかった」「周りは果樹園だった」「昔は牛が放牧されていて木がなかった」と、懐かしそうにみなさん口々に教えてくださいました。現在のなまこ山は、高さ10mほどのミズナラやイタヤカエデ、つる植物のクズやヤマブドウで夏は日差しが遮られ薄暗いほどです。昔の写真を見ると(写真3)、牧場だった頃は木がない部分が多かったことがわかりました。そのほか、なまこ形の地形はほとんど変わっておらず、昔の牧場の家屋の南側に見える木が今も同じ位置にあることがわかりました。美術館側からなまこ山への登り口に大きなポプラがありますが、もしかするとそれも昔に植えられたものかもしれません。今回は、参加したみなさんの記憶から情報をいただき、本などで調べた情報のすき間を埋めることができました。人に聞く、というのも調べる方法の一つだと実感しました。(山崎)

※ナマコ山は通称で、地図に名前が書かれていません。かつては牧場の敷地内にあり、牧場主の名前をとって「馬場山」とも呼ばれていました。

※地質について「歩こう!札幌の地形と地質」の著者である前田寿嗣氏にご意見をいただきました。ありがとうございました。



写真1：マナマコ(食用にされる)



写真2：平成20年(2008年)



写真3：昭和36年(1961年)

写真1撮影：山崎真実/空中写真：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス MH0613B-C3-336, CH020081-C56-26

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシヤ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。



市指定文化財「清華亭」のある
偕楽園緑地(北区北7西7)に
残る起伏のある地形。これが
琴似の地名となった。
(2014年10月撮影)

「コトニ」な地形ではない「琴似」

北海道の地名の多くはアイヌ語に由来します。そこにはその土地の地形や自然環境の特徴など、写真や文字で残された資料からはたどれない真実が潜んでいることがあります。今回取り上げる西区は、琴似・発寒川流域の札幌西部山地と琴似・発寒川扇状地を中心に広がる一帯にあたります。琴似の地名は、「コッ・ネ・イ＝くぼ地・になっている・処」、発寒の地名は「ハチャム＝ムクドリ(の多いところ)」を語源としているそうです(山田秀三、1965)。ムクドリは現在でも人里近い場所で普通に見られる鳥なので文字通りに受け取るとしても、現在の琴似には、くぼ地になっているところを確認することはできません。では、琴似の「くぼ地になっているところ」とはどこなのでしょう？

もともと「コッ・ネ・イ」と呼ばれた土地は、偕楽園周辺(北区北7西7)でした。そこは、豊平川扇状地が終わる場所にあたり、扇状地の運んできた石ころ(扇状地堆積物)の層が薄くなっている所です。そこまでは扇状地堆積物の中を地下水が流れてきますが、層の薄くなった所で地上に湧き出し、池

となっていました。扇状地の終わる場所には細かな砂や泥が堆積します。あふれ出した地下水がそれを流していき、地面に深い溝を刻みました。これが「コッ・ネ・イ」にあたるくぼ地です。今も、偕楽園緑地に行くと、水の流れが刻んだ凹地の地形を観察できます。

では、なぜ偕楽園付近の地名が、西区のしかもくぼ地のない所に移動することになったのでしょうか？それには、明治時代のはじめ、偕楽園周辺にすんでいた琴似又市というアイヌの優秀な青年が関係します。明治四年に日本初の公設公園として偕楽園を整備するため、彼らは代わりに現在の琴似に土地を与えられました。琴似・発寒川扇状地は豊平川扇状地ほど規模が大きくないため、先端部に湧水池が形成されることがありませんでした。かくして、現在の琴似の地名は、その場所の地形ではなく、くぼ地にちなむ名前をもった人が移住したことでコトニと呼ばれることになったのです。

(古沢)

科学絵本よみきかせ & 学芸員の井戸端サイエンス

●11/15(土) 14:00~14:30

テーマ：海と川のサケの仲間たち

●12/13(土) 14:00~14:30

テーマ：雪の結晶

対象：3歳～大人 申込不要、無料

会場：札幌市博物館活動センター展示室内

読み手：絵本よみきかせユニット・月et兎(つきとうさぎ)

11月は、
北海道大学など5つの施設
と行っているサケの
サイエンス・テーリング。
サケの学習をして、
スタンプを集めて
マグカップをもらおう！

最近の活動レポート



円山スナークアート展2014に参加
2014.9.11-21 会場：円山動物園

当センターで活動する標本・教材製作サークル・ボランティア「えぞホネ団」が出展。今年度から取り組んでいる動物（飼育中に死亡）の組織にシリコン樹脂を浸透させたプラスティネーション標本を紹介しました。この標本のよいところは、本物を安全にさわってもらえることです。（来場者による人気投票「市民賞」でのえぞホネ団の得票数は100票を越え、第5位に食い込みました！



(仮称)札幌博物館基本計画関連フォーラム兼
第29回サイエンス・フォーラムinさっぽろ
「生きている化石イチョウ、メタセコイア
そして北海道の植物化石」
2014.9.27 会場：札幌市中央図書館講堂

写真は、塚腰実氏（大阪市立自然史博物館）のお話しの途中の一コマ。イチョウの押し葉を光に透かし、植物化石で重要な観察ポイントである葉脈を観察しているところです。

成田敦史氏（北海道札幌藻岩高等学校）のお話では植物化石のデータを総合的に解析することで過去の気候変動をも探ることができるという地元北海道での研究成果の紹介でした。

博物館についてはアンケートで多数のご意見を頂きました。多くのご来場ありがとうございました。

連載!

札幌っ子 大杉解説員の **じのスケッチブック**

Page10 札幌の鳥の住宅事情～人間の生活と共に変化する巣づくり～

昨年の冬にお客様から鳥の巣を頂きました。その鳥の巣は思いもよらない場所にあったそうです。どこに巣を作ったと思いますか？家の軒先？橋の下？当然、木の枝の間でしょうという声が聞こえてきそうですが、答えは、軽トラックのボンネットの中なのです。自動車修理会社でエンジン等の車の部品が取り除かれて置かれたままになっていたのです。お客様の推測だと「車体の下から侵入したのかも？」とのことでした。なんと、巣には卵の殻もありました。（スタッフの力量では、鳥の同定はできませんでした。）

人間の生活が昔と比べて大きく変わったように、人間の生活圏に適応して暮らす鳥たちの“住宅事情”も少しずつ変化していくのかもしれない。



ボンネットの中にあった鳥の巣と卵



お客様から聞いた話を参考にしたイメージ
イラスト:Asami Hikiya

参考文献:「鳥の巣研究ノートPart1」、「鳥の巣研究ノートPart2」いずれも文・絵 鈴木まもる(2004年刊)

行事おしらせ

第31回サイエンス・フォーラムinさっぽろ

地震の正体と北海道の地震たち

日時 11月29日(土) 14:00~16:00 (13:30開場)

会場 札幌市中央図書館講堂 (中央区南2条西13丁目1-1、3階)

*エレベータで1階から3階まであがれます。*市電またはバスでお越しください。

お話し 笠原 稔氏 (北海道大学名誉教授)

内容●地震の正体は、地球進化の申し子であり、今後も人類は共生を図らざるを得ません。正しく付き合うためには、地震をよく知っておきたいと思っ

講師プロフィール●1945年生まれ。高校まで盛岡市。専門は地震学、特に、地震観測・地殻変動観測を通して北海道およびその周辺の地震活動の原因を探る。

主催 サイエンス・コンソーシアム札幌 (札幌科学談話会、札幌市博物館活動センター、札幌市中央図書館)

札幌市博物館活動センターご案内

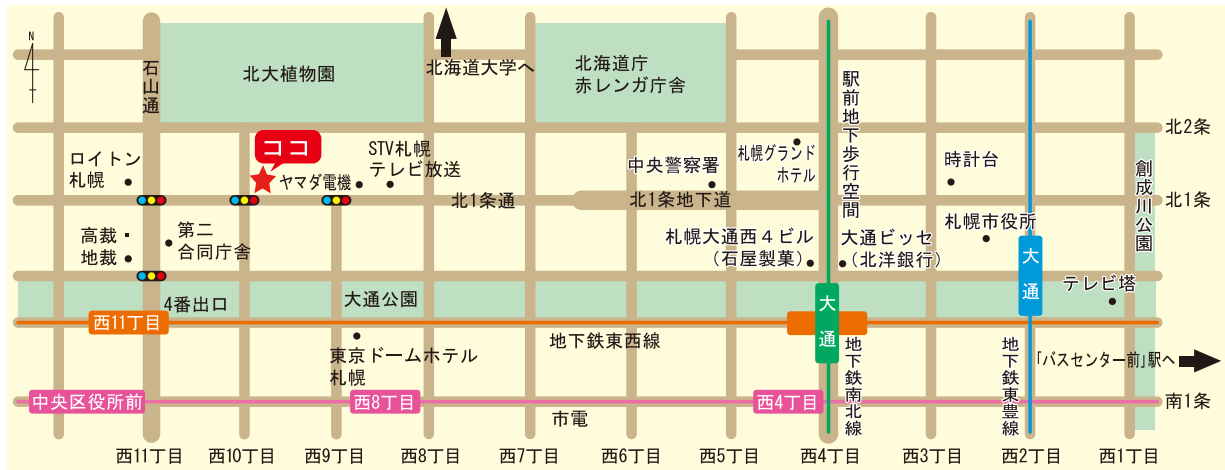


ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

【開館時間】10時~17時【入館料】無料【休館日】日・月曜日、祝日、年末年始(12/29~1/3)

【住所】〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ5階

【電話】011-200-5002【FAX】011-200-5003【E-mail】museum@city.sapporo.jp



■公共交通機関をご利用ください。

<地下鉄>東西線西11丁目駅4番出口徒歩5分。

<市電>西8丁目または中央区役所前電停徒歩8分。

<バス>北1条西7丁目バス停徒歩3分。

■札幌駅前地下歩行空間を大通方面に向かい、北1条地下道へ右折し、最も西側の出口(右手)から地上へ出て、そのままヤマダ電機の方

編集後記

「ここは私の秘密の小道なの。」なまこ山の観察会の下見で出会った近くの住民のセリフです。夏は暑いアスファルトの道を避けて、涼しいなまこ山を通るそうです。めったに人に会わないので私たちに驚いたと言いながらも、ニコニコして秘密を教えてくれました。(秘密の共有はワクワクする?) (ま)

累計来館者数 **94,409**人
(2014年9月末現在)



さっぽろ市
02-J02-14-782
26-2-542



ミュージレターは、再生紙および植物油インキを使用しています。